

2023年6月：JaCVAM活動マンスリーレポート

NO.	項 目	記 載 内 容
論文・総説		
1	著者名	小島肇夫
	論文題名	動物実験代替法に関する国際機関の動向
	雑誌名、巻（号）、ページ、年	医学のあゆみ, 2023:285(9),777-780.

学会発表・セミナー発表		
1	発表者名（ポスター）	木下啓 ¹ , 安部賀央里 ¹ , 山田隆志, 足利太可雄, 頭金正博 ¹
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	¹ 名古屋市立大学 大学院薬学研究科 レギュラトリーサイエンス分野
	演題名	機械学習を用いた皮膚感作性強度予測モデルの開発と実用化に向けた検討
	学会名、発表年月及び場所	第50回日本毒性学会学術年会(2023.6.19, 横浜)
2	発表者名（口頭）	足利太可雄
	演題名	皮膚感作性に関する研究の現状と展望
	学会名、発表年月及び場所	第50回日本毒性学会学術年会(2023.6.19, 横浜)
3	発表者名（ポスター）	森華奈子 ¹ , 江畑知憲 ² , 杉本航 ³ , 小野美都穂 ⁴ , 田中利男 ⁵ , 小島肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	¹ アステラス製薬株式会社 ² 株式会社ボゾリサーチセンター ³ マルホ株式会社 ⁴ 株式会社三菱ケミカルリサーチ ⁵ 国立大学法人三重大学
	演題名	The use of Zebrafish teratogenicity assay in pharmaceutical companies
	学会名、発表年月及び場所	第50回日本毒性学会学術年会(2023.6.21, 横浜)
4	発表者名（ポスター）	安彦由喜恵 ¹ , 榊原隆史 ¹ , 越田美 ¹ , 古川桂子 ¹ , 松井豊 ¹ , 小島肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	¹ 株式会社化合物安全性研究所
	演題名	ウシ角膜を用いる混濁度および透過性（BCOP）試験法への病理組織検査組み込みの提案－化学物質への適用例－
	学会名、発表年月及び場所	第50回日本毒性学会学術年会(2023.6.21, 横浜)
5	発表者名（ポスター）	荒井りおん ¹ , 足利太可雄, 大野彰子, 飯島一智 ²
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	¹ 横浜国立大学大学院 理工学府 ² 横浜国立大学大学院 工学研究院
	演題名	THP-1細胞を用いたシリカナノ粒子とりポ多糖共暴露による抗原提示細胞活性化能の評価
	学会名、発表年月及び場所	第50回日本毒性学会学術年会(2023.6.21, 横浜)

6	発表者名（ポスター）	飯島一智 ¹ , 西田明日香 ² , 高橋遥 ² , 中浜美月 ² , 荒井りおん ² 山城真輝 ² , 大野彰子, 足利太可雄
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	¹ 横浜国立大学大学院 工学研究院 ² 横浜国立大学大学院 理工学府
	演題名	気管支モデル/単球系細胞株共培養系を用いたナノマテリアル吸入毒性評価と細胞間相互作用の解析
	学会名, 発表年月及び場所	第50回日本毒性学会学術年会(2023.6.21, 横浜)
7	発表者名（ポスター）	大野彰子, 西田明日香 ¹ , 沖山佳生 ³ , 飯島一智 ² , 足利太可雄
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	¹ 横浜国立大学大学院 理工学府 ² 横浜国立大学大学院 工学研究院 ³ 神戸大学大学院システム情報学研究科
	演題名	Verification of usefulness as evaluation index for nanomaterials using the h-CLAT test method
	学会名, 発表年月及び場所	第50回日本毒性学会学術年会(2023.6.21, 横浜)
8	発表者名（口頭）	足利太可雄, 波多野浩太 ¹ , 岩佐帆乃夏 ¹ , 木下啓 ² , 中村伸昭 ¹ , 安部賀央里 ² , 頭金正博 ²
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	¹ ホーユー株式会社 ² 名古屋市立大学大学院薬学研究科 医薬品安全性評価学分野
	演題名	Next Generation Risk Assessment事例研究：ヘアカラー製剤に存在するバンドロフスキーベースの定量的皮膚感作性リスク評価
	学会名, 発表年月及び場所	第48回日本化粧品学会(2023.6.24, 東京)
9	発表者名（口頭）	Ashikaga T
	演題名	Current status in Japan
	学会名, 発表年月及び場所	2nd Microphysiological systems (MPS) World Summit (2023.6.28, Berlin, Germany)